

年度	2026		
授業コード・授業科目	0010030301	人工知能実践プロジェクト [PJ-1]	
担当教員	鈴木 大助、林 向達、林 浩一		
開講期・曜日時限・教室	2026年度1学期、2026年度2学期	不定期開講	調整中
開講キャンパス	オンライン		
開講学科	2021～2026年度 武蔵野大学 文学部 日本文学文化学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GC学科 日本語母語 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GC学科 留学生 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 JC学科 日本語母語 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 JC学科 留学生 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GB学科 日本語母語 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GB学科 留学生 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GB学科 留学生 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 法学部 法律学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 法学部 政治学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 経済学部 経済学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 経営学部 経営学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 経営学部 会計・ファイナンス学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 EMC学部 EMC学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 人間科学部 人間科学科 通常 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 人間科学部 人間科学科 精神保健福祉士 3年／2022～2026年度 武蔵野大学 人間科学部 人間科学科 通常(精保混在) 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科 3年／2024～2026年度 武蔵野大学 ウェルビーイング 学部 ウェルビーイング 学科 通常 3年／2025年度 武蔵野大学 ウェルビーイング 学部 ウェルビーイング 学科 2年次編入 3年／2023～2026年度 武蔵野大学 工学部 サステナビリティ学科 3年／2021～2022年度 武蔵野大学 工学部 環境システム学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 工学部 数理工学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 教育学部 教育学科 学校教育（初等） 3年／2021年度 武蔵野大学 教育学部 教育学科 学校教育（理科） 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 教育学部 幼児教育学科 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 薬学部 薬学科 (6年制) 3年／2021～2026年度 武蔵野大学 看護学部 看護学科 3年		
単位数	2.0単位		
授業の方法	演習		
授業の実施形態	オンライン（一部対面。オンライン実施回が半数超）／Online (partially Face-to-Face: over 50% of the classes are Online)		
使用言語	日本語		
科目番号(ナンバリング)	SIC 301		

授業概要	【概要】 武蔵野大学では情報技術(IT)の学修を通じて、変化し続ける社会の中で、様々な困難な課題を解決し、より良い未来を作り出すことのできる人材の育成を目指している。この科目では、副専攻コースでの学びの集大成として、少人数のゼミ形式で各自がAIを活用するテーマを設定し、実践的に取り組む。 この科目では、各自がAI活用テーマを持ち、実社会のリアルなデータに対してAI等の高度な情報技術の活用を実践する。プロジェクト形式で具体的な課題分析と解決に取り組むことで、それまでに学んだスキルを統合的に活用する力を身に付けるとともに、将来の自身の働き方やキャリアのビジョンの検討を深める。この科目のクラスはプロジェクトとして扱うテーマの特徴ごとに用意されるが、追究する具体的なテーマの設定は各自の方向性も踏まえて個別に行う。 授業に先だって行われるクラス選定のためのテーマ説明会と、授業最終日以降に設定される成果発表会と修了式への参加が求められる。やむを得ない事情で参加できない場合には、代替手段を用意するので、教員に相談すること。 【具体的な内容】 この科目のクラスはテーマの種類ごとに用意されているが、各自の所属クラスは、授業に先だって行う説明会で提示されたテーマと、説明会後に各自が提出する希望を踏まえて割り当てられる。 授業が開始すると、複数の担当教員の指導の下で、各自が追究する個別テーマを設定する。その上で、各テーマごとにプロジェクトの活動計画を定め、各回授業で定例の活動報告を行う。教員や他の履修者とのディスカッションと相互評価を繰り返すことでプロジェクトを遂行する。 プロジェクトの活動結果は最終成果物の形にまとめ、授業最終日以降に開催される成果発表会で発表を行う。最終成果物の形態は、テーマの内容に応じて、ツール作成・ビデオプロトタイプ・利用ガイド・提案書など様々な形式で構わないが、具体的な利用者を想定したものとし、発表会の企画、発表資料の準備と発表を実施する。 以下に2026年度のテーマの一部を例示する。詳細は担当教員の担当領域と最新のAI動向を鑑みて設定され説明会で提示される。 ・ AIを活用した学習支援サービスをつくろう ・ ポジティブ感情(ハピネス)を強める方法を提案してみよう ・ 非認知能力(学力以外の強み)を高める方法を提案してみよう ・ VRやシミュレーションで行動の意図を活かしたサービスを作ろう ・ Pepperやチャットボットで新しいコミュニケーションを提案してみよう ・ 様々なデータを用いた教育支援サービスを作ろう ・ 人の行動／感情を分析して新しいサービスを提案しよう ・ オープンデータ×自作データで、身近な人の暮らしをよくする未来シナリオを提案してみよう ・ 目に見えない経験や感覚をAIで可視化・共有できるようにしよう ・ 生成AIとデータの組み合わせで新しいサービスを作ろう ・ 商品の口コミデータを分析して新しいサービスを提案しよう ・ 自分が詳しい領域のデータを分析してAIを使ったサービスを作ろう ・ 学生のESデータや面談データを分析して就活支援サービスを作ろう
------	---

	[キーワード] AI・データサイエンス実践（演習や課題解決型学習）＜データ・AI活用企画・実践・評価＞ ※この科目はクラスで定める週次での同時双方向授業および、学生の都合で決められるオンデマンド授業によって構成される。主に、同時双方向授業時間で進捗の確認と指導が行われ、オンデマンド授業時間で各テーマの探求や個別の教員指導が行われることを想定している。 ※この科目は、武蔵野大学のAI副専攻「AI活用エキスパートコース」を構成する科目群の一つで、専修科目に位置づけられ、コースの修了認定のために取得が必要な必修科目となっている。なお、この科目の履修はAI副専攻コースに参画していることが前提となる。詳しくは以下のコース説明を参照すること。 https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/curriculum-faculty/ai/
知識・専門性の到達目標	人工知能技術とデータサイエンスを中心とした技術を活用するための知識を習得し、社会課題に適用する具体的なテーマを構想できるようになる。【専門性】
関心・態度・人格の到達目標	人工知能技術とデータサイエンスを中心とした技術を社会課題に適用するテーマを実行するために、プロジェクトを主体的に推進することができる。【主体性・実行力・ストレスコントロール力】
思考力・判断力の到達目標	人工知能技術とデータサイエンスを活用するプロジェクトを推進する中で直面する様々な課題を、創造的に解決することができる。【創造的思考力】
交感力・発信力の到達目標	人工知能技術とデータサイエンスを活用するプロジェクトで、他のチームメンバーと連携することで、1人ではできない高度な成果を生み出すことができる。【傾聴力・リーダーシップ・チームワーク力】
「響学スパイラル」取り組み方法	物事を多面的・多角的な観点から考え、他者とともに主体的に世界の幸せをカタチにできる資質・能力の育成に取り組む。そのため、「問う」ことからはじめ、「考え・行動する」ことで実践のための道筋を探り、具体的に「カタチにする」取り組みを経て、問題の本質を「見つめ直し」、さらに再び「問う」という、武蔵野大学における学び（響学スパイラル）の基本的態度を身につける。

授業における「アクティブな知」の要素		
授業手法		対象
A：課題解決型学習（PBL）企業、自治体等との連携あり		－
B：課題解決型学習（PBL）連携なし		－
C：反転授業（知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		－
D：討議（ディスカッション、ディベート等）		○
E：グループワーク		－
F：発表（プレゼンテーション）		○
G：実習、フィールドワーク		○
H：双方向授業（ICT活用なし：対話型、リアクションペーパー等）		－
I：双方向授業（ICT活用あり：クリッカー、タブレット、スマートフォン等）		○
J：講義のみ		－
K：その他		－

授業における「ICTの活用」について		
活用形態		対象
A：ノートPC必携		○
B：講義資料や授業教材のオンライン配信		○
C：レポート課題等のオンライン提出		○
D：質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用		○
E：オンラインメディアの活用		○
F：Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		○
G：その他		－

予習（事前学修）			
各授業	30	分	授業中に提示された次回講義テーマや課題に関連する予備的な調査や準備活動をおこなう。次回講義に必要なソフトウェア環境の準備をしておく。また、講義で解説する技術や既存の事例等について下調べをしておく。
復習（事後学修）			
各授業	20	分	プロジェクトごとに提示された課題（テーマ考案・設定、輪読準備、プログラミング環境設定、サンプルプログラムの実行等）をおこなう。

成績評価		
評価項目		割合
課題提出（レポート）		100%
小テスト		0%
試験		0%
学習・学外学修活動		0%
その他		0%
成果物の学外発表（論文発表・コンペ出展・企業提案等）は、加点评価の対象となる。		
成績評価備考	課題提出：各自のテーマ遂行の経緯と結果を示す以下が成績評価の対象となる。 ①プロジェクト活動計画、②プロジェクト進捗報告、③最終成果物(ツール・ガイド・提案書等)、④成果発表会に向けた発表資料(ポスター・サムネイル等)、⑤キャリア形成に関わる提出物(ES・ペルソナ等)	

授業計画	
授業回	内容
第1回	プロジェクトグループごとに、実施テーマおよび基礎的な方法論・技術に関するオリエンテーションをおこなう。
第2回	プロジェクトグループごとに、実施テーマおよび基礎的な方法論・技術に関するオリエンテーションをおこなう。
第3回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。
第4回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。
第5回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。基礎的な方法論・技術の習得をおこなう。
第6回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。基礎的な方法論・技術の習得をおこなう。
第7回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。基礎的な方法論・技術の習得をおこなう。
第8回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。基礎的な方法論・技術の習得をおこなう。
第9回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。基礎的な方法論・技術の習得をおこなう。
第10回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。基礎的な方法論・技術の習得をおこなう。
第11回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。基礎的な方法論・技術の習得をおこなう。
第12回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを検討する。基礎的な方法論・技術の習得をおこなう。
第13回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを進める。基礎的な方法論・技術を用いた実習・実装をおこなう。
第14回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを進める。基礎的な方法論・技術を用いた実習・実装をおこなう。
第15回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを進める。基礎的な方法論・技術を用いた実習・実装をおこなう。
第16回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを進める。基礎的な方法論・技術を用いた実習・実装をおこなう。
第17回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを進める。基礎的な方法論・技術を用いた実習・実装をおこなう。
第18回	プロジェクトグループごとに、個人の実施テーマを進める。基礎的な方法論・技術を用いた実習・実装をおこなう。
第19回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。
第20回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。
第21回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。
第22回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。
第23回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。成果発表会でのポスター発表を企画する。
第24回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。成果発表会でのポスター発表を企画する。

第25回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。成果発表会でのポスター発表を企画する。ポスター発表用のポスターを作成する。		
第26回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。成果発表会でのポスター発表を企画する。ポスター発表用のポスターを作成する。		
第27回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。成果発表会でのポスター発表を企画する。ポスター発表用のポスターを作成する。		
第28回	プロジェクトグループごとに、成果発表会に向けた個人の実施テーマのまとめをおこなう。成果発表会でのポスター発表を企画する。ポスター発表用のポスターを作成する。		
留意事項			
教科書（購入必要）			
参考図書（任意購入）			
その他（配付教材等により購入不要）1			
その他（配付教材等により購入不要）2			
その他（配付教材等により購入不要）3			
その他（配付教材等により購入不要）4			
その他（配付教材等により購入不要）5			
参考URL			
1.			
webサイト名			
URL			
参考URLに関する履修学生への連絡事項			
2.			
webサイト名			
URL			
参考URLに関する履修学生への連絡事項			
3.			
webサイト名			
URL			
参考URLに関する履修学生への連絡事項			
4.			
webサイト名			
URL			
参考URLに関する履修学生への連絡事項			
5.			
webサイト名			
URL			

参考URLに関する履修学生への連絡事項	
実務経験のある教員等による授業科目(実践的教育を行う授業科目)	
実践的教育を行う授業科目の種別	対象
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	—
担当教員の实務経験(経歴・資格等)	
授業内容との関連性	
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	—
学外講師の経歴・資格等	
授業内容との関連性	
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業	—
実習先・実習の目的	
備考	